

シェイクスピアの コメディと 歌舞伎が出会う

『NINAGAWA 十二夜』 ロンドン公演より

演出家・蜷川幸雄氏がシェイクスピアのコメディを歌舞伎にした『NINAGAWA 十二夜』。2005年、日本での初演のあと、約3年間の準備を経て、2009年3月、シェイクスピアゆかりのロンドン、バービカンシアターで上演、大好評を博しました。6月からの東京・大阪での凱旋公演を前に、ロンドン公演の様様を振り返ります。

〈上〉『NINAGAWA 十二夜』の序幕。桜が咲き乱れ、チェンバロと鼓、コーラスによる賛美歌が流れるなか、大篠左大臣が織笛姫への思いを語る
〈左〉ロンドン公演の行なわれたバービカンシアター
〈右〉会場内には三役をこなした尾上菊之助の写真が掲げられた
写真提供：松竹株式会社(以下も同じ)

あらずし

双子の兄妹、斯波主膳之助と琵琶姫の乗った船が難破、二人は離ればなれに。琵琶姫は獅子丸と名を変え、男として、紀伊国加太の大篠左大臣につかえつつ、密かに左大臣に思いを寄せる。その左大臣は公家の織笛姫に片思い。恋文を獅子丸に届けさせるが、肝心の織笛姫は獅子丸に一目惚れ。

一方、家老の丸尾坊太夫が織笛姫に思いを寄せていることを知った姫の叔父、左大弁洞院鐘道は腰元の麻阿、右大弁安藤英竹を巻き込んで、坊太夫に一泡吹かせる相談。

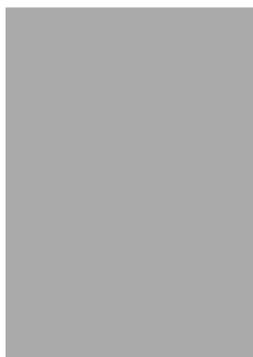
そんな渦中に、主膳之助が織笛姫の屋敷に登場。そっくりな主膳之助と獅子丸の二人に周囲は大混乱に陥る。ついに兄と妹は出会い、獅子丸が女であることを知った左大臣は求婚。織笛姫は主膳之助と結ばれ、めでたく二組のカップルが誕生する。



〈上、左から〉尾上菊之助が一人三役で演じた琵琶姫、主膳之助、獅子丸

〈下〉百合の花の咲き乱れる織笛姫邸奥庭。獅子丸が待つ庭園に橋を渡り、織笛姫が現れる。ミラーがセットと俳優を写し込み、舞台に奥行き感が増す

〈上〉菊之助演じる獅子丸
は密かに思いを寄せる大
篠左大臣の前で舞を舞う
〈下〉腰元・麻阿を演じる
市川亀治郎。家老の丸尾
坊太夫を巽にはめて、から
かうユーモラスな演技で、
コメディらしさを高める



『NINAGAWA十二夜』

ロンドン公演

日時 2009年3月24日(火)～
28日(土)

場所 バービカンシアター

スタッフ

演出＝蛭川幸雄
原作＝W・シェイクスピア
訳＝小田島雄志
脚本＝今井豊茂
装置＝金井勇一郎
照明＝勝柴次朗
製作＝松竹

●6月の東京公演、7月の大阪公演の
情報は24ページにあります。